

であるが、はからずもこのたび京都大学学術出版会によって出版の機会を与えられた。まことに有難いことである。貴重な文献について教示戴いたり、また貸与下さった、出版会および周囲の方々、関係者の各位、並びに直接折衝にあたられた八木俊樹氏に感謝申し上げる。

一九九三年三月二十日

『デュナミス』創刊号 1997年5月1日。

デュナミス 発刊の辞

このたび我が文化環境言語基礎論講座で、論集というほどのものではないにしても、それぞれが論文を書くよすがとかなればとの想いで、小冊子を出すことにした。出すからには名前がなければならない。皆で苦吟したがなかなか決まらない。結果『デュナミス』とすることになった。デュナミスとは、言うところの「潜勢」であり、エネルゲイアを生み出す底のものである。これはただエネルゲイアに先立つというものではない。それは力である。既にしてそこには神気が動いている。たとえばはじめは幽かな揺らぎであっても、揺曳する神気がおのずから凝り、やがては「顕勢」となって奔出するであろう。少なくともそのような期待を抱いて発刊の辞としたい。終わりに、ウェルギリウスのひそみにならって一言。

Labor omnia vicit / Improbus (Georgica 1, 145-146)

山口 巖
洛東研究室にて
1997年3月